

令和五年度福祉作文コンクール
最優秀賞 「みんなを笑顔に」

釜石市立栗林小学校

四年 遠野 とおの 姫瑠 める

「笑顔は、まほうの薬です。」

これは、わたしが福祉について学習し、考えた言葉です。わたしは、「福祉」という言葉は聞いたことがありました。その意味を調べると、たくさんの人びとに平等に分けられる幸せということが分かりましたが、なかなかイメージがわからなくて、むずかしいことのように感じました。

福祉について学習しているときに、「明日のために、今日つながろう」というテーマで24時間テレビが放送されていました。その番組の中で、足が不自由だったり、耳が聞こえなかったり、ほねのガンの病気になってしまったりしている人達が、それぞれの目標に向かってチャレンジをして、がんばっている場面を見ました。足が不自由な子は、ふつうの人のようには立って歩くことはできません。だから、車いすで過ごすことが日じようになっていました。耳が聞こえない人は、手話を使って自分の気持ちを伝えていました。ほねのガンが見つかったサッカ―がとくいな男の子は、どんなにつらいちりようでも、病気をなおすんだという強い気持ちでがんばっていました。

わたしはその番組を見て、しょうがいがあったり、病気になったりしても、みんな笑顔があふれているところがすてきなと思いました。なぜかというところ、その人達はどんな時でもずっと笑顔いっぱい生活していたからです。笑顔がいっぱいだと、周りの人に安心感や前向きなパワーをあたえます。わたしたちみたいな健康な人とくらべたら、しょうがいがある人はふつうの生活がしにくい部分があると思います。だから、手話や点字ブロック、車いすなどがたよりになります。また、バリアフリーなかんきようがなければ生活がしにくいです。そんな大変な生活の中でも笑顔でいるところがすごいと思いました。

わたしには、九十九才になるひいおばあちゃんがあります。耳は遠いけれど元気です。わたしが生まれる前から、しせつでくらししています。はなれていても、笑顔でくらししていればうれいす。

わたしの家族は、わたしのことをたくさん笑顔にしてくれます。例えば、おいしいごはんを作ってくれたり、習い事や買い物につれていってくれたりしています。そのため、わたしも家族のために何かできることはないか、二つのことを考えました。一つ目は、お手伝いをたくさんすることです。いつも家族のために家事をしているお母さん、お父さんのお手伝いをたくさんして、家族みんなを笑顔にしたいです。二つ目は、やってみることに「ありがとう」と伝えることです。ふだんやってもらったことに対して、感しやの気持ちを伝えることで、少しでも笑顔になってもらえると思うからです。このようなきさいなことでも、わたしにできることをして、家族が笑顔いっぱいになれたらうれいす。

わたしは、「福祉」の学習を通して、笑顔の大切さに気が付きました。笑顔でいること、笑顔になること、だれかを笑顔にすることが福祉の意味である、たくさんの人びとに平等に分けられる幸せにつながるのではないかと思ひます。笑顔は、つらいときや、悲しいときに前向きになれるまほうのパワーを持っています。また笑顔は、しょうがいのある人や、病気になってしまった人、小さい子どもからお年よりまで、どんな人でも同じく幸せにするパワーを持っていると思ひます。

わたしは、これから先、楽しいことやうれいこと、つらいことや大変なことなど、いろいろなことがあると思ひけれど、どんな時でも笑顔を大切にし、笑顔をおすれずにいたひです。わたしが笑顔でいれば、周りの人達も自ぜん笑顔となり、幸せの輪が広がっていくと思ひます。

「笑顔は、まほうの薬です。」

令和五年度福祉作文コンクール

優秀賞 「みんなが幸せになれる世の中に」

釜石市立唐丹小学校

四年 齊藤 希良璃

わたしは、総合の時間に「福祉」について勉強しました。福祉とは、特別なことではなく、みんなが幸せになることで、『**㊦**だんの**㊫**らしの**㊬**あわせ』と考えることが分かりました。みんなが幸せになるために、困っているときはおたがいさまという気持ちで、助け合うことが大切になるそうです。

勉強していくと、ユニバーサルデザインというものがあることが分かりました。ユニバーサルデザインとは、みんなが使えるようにものや建物、空間をデザインしていこうという考えだそうです。いつも見ているものの中にも、牛乳パックにくぼみがあったり、シャンプーやラップにでこぼこがついていたりすることに気づきました。調べていくと、はさみやおもちゃなどにも、ユニバーサルデザインのものがあると知りました。障がいをもっている人が使いやすいものがたくさんあって良かったと思います。

四年生みんなでハンディキャップ体験もしました。白杖体験してみると、白杖があっても、しょうがい物や前が見えないので、こわくてあまり進めず苦労しました。目の不自由な人たちは、移動するのにこんなにたいへんな思いをしていることが分かりました。補助の仕方も教えてもらったので、まずはおどろかせないように声をかけてから、自分の肩やひじをつかんでもらい、様子をくわしく伝えながら案内の手伝いをしたいです。

点字体験では、自分の名前の読み方や書き方を教えてもらいましたが、指先で小さい点のならびや文字の区切りを感じるのがむずかしいと思いました。点字を使っている人は、かなり努力して覚えたと思います。目の不自由な人たちが、もっと本を楽しめるように、たくさん点字の本がふえてほしいと思いました。

今回、福祉の勉強をしてみて、目の不自由な人の気持ちが少し分かったし、目の不自由な人のためにいろいろと工夫されていることも分かりました。でも、世の中には、もっといろいろな障がいをもった人がいます。その全ての人たちのふだんの生活がくらしやすいかと言ったら、まだまだ不便なことも多いと思います。これからわたしにできることは、こまっている人に進んで声をかけて、助けてあげることだと思います。みんなが助け合って、みんなが幸せになれる世の中が当たり前になってほしいし、そんな世の中になるようにわたしにできることをがんばっていききたいです。

令和五年度福祉作文コンクール

優秀賞「共にいきる」

岩手県立釜石商工高等学校

一年 やはた さおり
八幡 沙織

六十五歳以上、約一万二千人、0歳から十四歳、約二千五百人、現在の人口二万百六十一人、子どもが少なくお年寄りが多い、岩手に限らず釜石市に限らず、ほかの県もどこの町も日本全国同じではあるが、私の住む釜石はまさに「少子高齢」の町だとあらためて感じます。少子も高齢もどちらも深刻な事である。福祉という言葉聞いて一番に私の頭によぎるのは「高齢化」です。自分の周りで実際にあったことや聞いたことを基に、お年寄りの方が安心して生活できるように自分ができること、地域や国にやってほしいことを考えてみました。

当時八十一歳だった私の祖母は、高齢により体が思うように動けないうえに脳梗塞の後遺症で高次機能障害になりました。要介護5の状態です。在宅介護が始まりました。家では祖父が祖母のお世話をしました。祖父も八十一歳、介護のサービスを使い、私の母や伯父も手伝いました。祖父の負担はやはり大きく、毎日のお世話を続ける中で気持ちも体も思う気持ちと反比例してしまっている祖父を私はただみているだけでした。そしてまた、現在入院生活をしているもう一人の私の祖父がいます。釜石での病院、施設入所が難しいという理由で盛岡の病院に入院しています。近くであれば毎日でも会いに行きたいだろう祖母も盛岡まではそうそう行けない、そういう状況で生活をしています。

この自分のすぐ近くで起きたこと、起きていることを改めて思い起こしてみようこと、考えることとは、若くて元気で健康な私が考えられることは何か。

高齢者が高齢者の介護をする「老老介護」。高齢者二人きりの暮らしの中で行われる在宅介護。介護する側の高齢者は、自分の体や体調と向き合うことだけでも簡単ではないだろうその中で、人の助けを借りずには生きていくことさえも難しい介護される側の高齢者のお世話をすることだけで一日が過ぎていく。いろいろな思いを持たずにはいられないその日々の積み重ね、介護疲れによって起こってしまう悲しい事件。テレビで報道されているのを見たことはあった。複雑な表情で見ていた母がいたのを思い出した。今こうして福祉について目を向け考えてみると、当時小学生だった自分と今の自分、自分自身の思い方や感じ方の違いを当たり前がら感じることが出来る。

介護される側を優先に物事を考え行動することはもちろん大前提であることは理解する。この介護に関わる介護する側の人へのケアというのが最も大切なのではないかと思う。私の場合、自分にできること、できただろうと思うことそれは祖父に寄り添う時間、コミュニケーションの時間をできる限りたくさん持つことではないだろうかと考える。場所は変えなくてもいい、介護されている祖母を交えてみんな楽しんで話で笑って過ごす時間を持つことで日々の疲れが少しでもほぐれ、本来の優しい気持ちを取り戻すのではないかと、そういう役割が孫である自分のできる一番の祖父のケアになるのではないだろうか。また、少子高齢化が進む近年、よく見たり聞いたりする福祉という言葉であるが、福祉とは、と問われると正直答えることができない自分がいる。知識もないのが実態でもあるが、福祉とは、と問われると正直答えることができないの知識を学びたいと思う。気軽に学んだり体験できる場ができればぜひ参加したいと思う。知識がない中で地域に思うこと、高齢者が増えていくなかで、介護の職場で仕事をする人、ホームヘルパーさんなど不足していると聞きます。大変なのだと思いますが、在宅介護をしている老老介護の世帯に対してなにか、ちよつとでも少しでも地域がしてあげられる事が増えることを願います。

「福祉」とは「幸福」という素敵な意味と知りました。「普段の暮らしが幸せ」になることを想い、私もこれから福祉のことを学び関心を持って過ごしていきたいです。

みなさんは、「見えない病気」について考えたことはありますか。私は、一度も考えたことはありませんでした。

私が、「見えない病気」について考えたきっかけは、テレビドラマでした。そのドラマは、自ら発達障害^{II}凸凹を抱える児童精神科医と研修医が、生きづらさを持ち、心の闇を抱えてしまった子どもとその親に、正面からまっすぐ向き合い、ともに苦難を乗り越えていく、というストーリーです。

見えない病気である発達障害には、「じつとしていられない」「予定や物を置いた場所を忘れてしまう」といった特性があります。そして、それがもとで周りの人たちとのトラブルが起きやすいのです。

このことを知ったとき私は、「なぜだろう?」「治せないのかな?」と思いました。もし、私の身近にこういう人がいたら、「何でできないの?」「何で忘れるの?」と、相手を傷つける言葉をかけていたかもしれません。もし相手が、発達障害だからそうなるのだと告白してくれたとしても、無責任に「私もそうだよ。よく忘れるよ。」と言っていたと思いますし、「あの人、周りから浮いてる。」「何もできないんだな。」「何かを任せるのはできなさそうだな。」と考えてしまっていたと思います。

しかし、ドラマの主人公である研修医は、医師にそう診断されるまでは、自分が発達障害であることを知らずに生活できていたし、研修医という社会人として、働くことができていました。このことから、発達障害であっても、みんなと同じ人間で、持っている凸凹は個性であると感じました。さらに、この個性があるからこそ、周りとは違う視点で物事を見たり、考えたりすることができるので、とても大事なものだと感じました。

私は、見えない病気である発達障害をもっている人たちが、より暮らしやすくなるためには、コミュニケーションの取り方が大事だと考えます。お互いのペースに合わせてコミュニケーションを取れば、安心感を持って楽しく会話できます。その中で、お互いの考えの同じところや違うところを知ることができれば、お互いの理解が深まります。そんなコミュニケーションが取れる環境を、みんなで作っていくことが大事だと思います。

これからの社会は、「多様性社会」といって、今まで以上に色々な個性をお互いに認め合い、みんなが自分らしく生きられるようになっていかなければならないとされています。

私は、これからの生活の中で、周りに見えない病気を持っている人がいたとしても、自分の考えだけでその人のことを判断し、自分が思ったままをただ伝えるのではなく、相手のことを考え理解し、周りとの違いも一つの個性ととらえ、相手を大事にしながら積極的に接していきます。その際、コミュニケーションの取り方を、相手の立場に立って考え工夫し、お互いに心が通じ合えるようにしたいと思います。

それが、凸凹を抱え、苦しんでいる人たちが、笑顔で自分らしく暮らしていける社会づくりにつながればいいなと思います。

佳作「皆が生きやすくなるために」

岩手県立釜石商工高等学校

一年 菊池 きくち 風音 かざね

皆さんは今の世界が生きやすく幸福だと思いますか？私は生きやすい、幸福だと思う人は少ないと思います。なぜなら障がいを持つ人に差別をしたり、介護する職員不足や福祉施設の過密状態などがあると思っただからです。また、障がい者や高齢者、小さい子供などが日常生活を送る上でのバリアフリーの整備が不十分だと考えたからです。こうした課題を解決するためにどうするべきかを考えたのが五つあります。

一つ目は、社会全体が障がい者などに対して理解を深めることです。理解を深めると差別もなくなり、より生きやすくなると思います。理解を深めることは簡単なことではないかもしれませんが、障がい者の方々に直接話をして抱えている課題や問題を聞くこともできると思います。また、障がい者との交流をすることによって共通することがあったり、違うこともあったりしてお互いの価値観を尊重し、知ることができると考えたからです。

二つ目は、支援を行うことです。バリアフリーの整備が不十分だという課題を上げましたが支援を行うことによってその課題も解決するのではないかと考えました。例えば、バリアフリー化を進めることによって、車いすの方や足の不自由な方、目が見えない方などでもスムーズに移動できる環境になると思います。公共施設や交通機関のバリアフリー化はもちろん、身近な場所から進めていくことが大切だと思います。

三つ目は、医療や介護サービスを充実させることです。充実させるためには、医療や介護の専門職の確保、地域包括ケアなど地域の人と協力して取り組むことも大切だと思います。また、社会全体で医療や介護に関する問題を共有して解決策を模索することでより充実すると思います。

四つ目は、障がい者などが気軽に参加しやすい場所を作ることです。例えば地域の交流会や趣味のサークルなど社会や人ともつながれる場所です。その場を作ることによって、社会参加の機会が増え、社会的孤立感が解消されると思うし、多様性が尊重され自己肯定感が向上し自信を持って生活することができます。自信を持って生活する人が多くなると社会全体が豊かになると考えました。また、障がい者も気軽に参加できる場所があることで、その人達の能力や才能を見つけることができ、社会全体の発展に貢献することができると思います。

五つ目は、社会全体が健康的で安全な生活を送ることです。そもそも社会全体が健康でなければ一つ目から四つ目までの考えたことも行うことができません。そこで良い環境を作るためには健康的な食事を摂取できるような環境を整えたり、運動することができる場所を提供することです。さらに、犯罪や事故の予防策を整えて安心して生活することができる社会を作ることも大切だと思います。

私は、この五つのことを考えました。こうした課題を解決するために、社会全体で協力し、取り組んでいくことが大切です。私達一人ひとりも、身近な人の支援やボランティア活動などをするることによって、意識を高めていくことも大切だと思います。今私はボランティア委員会に参加していますが活動するのは少しなので積極的に参加していきたいと思っています。ボランティア委員会では高齢者や障がい者との関わりはまだないのでそういう交流があったら参加してみようと思いました。さらに、バリアフリー化だけでなくインクルーシブの、性別や人種、国籍、宗教などの違いがある人々も差別や偏見を受けることなく社会に参加し、自由に生きることができると社会の取り組みを進めることによってより全体が良い環境になり生きやすくなると思います。豊かな日常生活を送るためにこの問題に対して真剣に考えていき、取り組んでいくことが必要だと考えます。一人ひとりが優しい心を持ち、誰にでも平等に接しボランティアにも参加していきましよう。

令和五年度福祉作文コンクール

佳作「高齢者福祉について」

岩手県立釜石商工高等学校

一年 平塚 ひらつか 星那 せいな

初めに皆さんは、高齢者福祉という言葉聞いたことはありませんか。

高齢者福祉というのは、社会福祉制度の一分野で、特に高齢者を対象とするサービスのことを指し、老人福祉とも呼ばれています。

今回、なぜ私が色々な福祉がある中で高齢者福祉を選んだのか、理由は二つあります。

一つ目は、最近耳にする少子高齢化と高齢者福祉のこの二つには、似たような問題があるのではないかと思っただけです。実際に、少子化の進行が進み地域社会の機能や世帯構造が大きく変化し、高齢者介護・福祉のあり方が大きな課題になっています。課題があるだけでなく悪い方向になってきているのではと考える人もいます。高齢者福祉は長年にわたって社会の進展に寄与し、豊富な知識と経験を有している高齢者が、敬愛され、生きがいをもって健康で安心した生活を送ることができるよう、社会全体で支えていくことを目的に「老人福祉法」に基づいて発展していています。そう聞くと、課題があったとしても少しずつ発展しているような感じがしてとても嬉しいです。

二つ目は、高齢者の介護は今どのような状態になっているか気になったからです。なぜ気になったかと言うと、ニュースやネット記事で介護について触れているものをたまたま目にし、高齢者の介護は今大変なことになっているのではと思います。調べたところ昭和四十五年生(1970)年に高齢化率が七パーセントを超え、平成六(1994)年には十四パーセントを超えるなど、急速に高齢化が進展するなかで、認知症高齢者の増加、核家族化の進行や家族の介護機能の低下などにより、高齢者の介護が社会の重要な課題となっていました。

調べれば調べるほど、高齢者福祉の課題というものが沢山あり、まだまだ先は長いと感じますが現在、高齢者に対するホームヘルプサービスや福祉施設の利用等、具体的なサービスの多くは平成十二(2000)年に導入された介護保険制度のもとで実施されています。介護保険法に基づくサービスを利用するためには、あらかじめ介護の必要性や必要量についての認定(要介護認定)を受ける必要があります。市町村がその業務を行っています。介護保険制度は国民生活への定着が進み、高齢期の生活を支えるためにはなくてはならないサービスとなりました。利用者数も増加の一途をたどっており、今後も国民の医療・介護の需要が増加することが見込まれています。このため国では、団塊の世代(約800万人)が七十五歳以上となる2025年を目途に、「地域包括ケアシステム」の構築をめざして各種施策を推進しています。このように未来へ向けて、推進していったらいいればいつか高齢者福祉の課題自体がなくなるのではないかと思います。

高齢者福祉について、まだまだ知らないようなことがあり、今自分に出来ることは何かと考えると出来ることが沢山あります。例えば、「支え合い」や「助け合い」などが上げられます。これは地域社会全体の見守りをはじめとするインフォーマルなサービスとされています。ですが、私はインフォーマルなサービスでなくとも「支え合い」、「助け合い」は一人一人が出来ると思っています。困っている人がいたら助けたり、また自分が困っている時に助けてもらったりと日常生活の中でお互いに助け合って生きていくので高齢者の方が困っていたら助け、高齢者福祉の課題をなくすという前向きな行動を今を生きる私達がするべきなのではないかと思っています。

行動するだけでも、何かしらは変わっていくはずなんです。なので、今一度改めて高齢者福祉のことについて皆さんにも知ってほしいし、自分に今出来ることは何があるかなども深く考えながらよりよい未来へするために行動してほしいと思いました。

令和五年度福祉作文コンクール
佳作「福祉について」

岩手県立釜石商工高等学校

一年 おしきり 押切 こうだい 康大

僕たちが社会に出て、人と触れ合っていく中で大切なのは福祉の心だと思います。福祉の心は幼い頃から育むことが大切です。

福祉の心とは、自分自身のことだけでなく、周りの人や社会全体のことを考え、助け合いをする心です。これは、特に高校生としての僕にとっても大切なことであり、子どもたちが将来社会に出て行く上でも必要不可欠な要素の一つです。

福祉の心を培うためには、思いやりの心、助け合いの心が必要だと思います。その中の思いやりの心で必要なのは、「他人の気持ちを理解し、配慮すること」です。幼い頃から気遣いや配慮が出来る子供は、大人になる途中過程でもすでに考え方、対応の仕方が大人になります。また、自分にも思いやりを持って接している人がいると、心が温かくなり、心が豊かになります。ただし、人が感じる思いやりは、自分から出すことによつて生まれるので児童や学生の皆さんは、自分から周囲に思いやりの気持ちを表現することを心がけましょう。

そして、助け合いの心で必要なのは、「お互いを助け合つて何かを達成すること」です。例えば、クラスメイトと一緒に勉強したり、部活動で協力して決めた目標を達成するための力が付きます。さらに、相手に対してお礼を言われると、嬉しい気持ちになることもあるでしょう。同時に、困っている人がいたら、手を差し伸べて、助け合えることが出来るようになれば、誰かからの信頼を得られます。そして、その信頼を元に、さらに多くの人を支援することが出来るようになると思います。

児童や学生の皆さんは、周りの人に手を差し伸べることがあると思います。かけがえのない「助け合いの心」を持って、人と関わっていくことを大切にしましょう。

このように、思いやりの心や助け合いの心を育むことは、僕たち自身だけでなく、周りの人たちや社会にも良い影響を与えます。僕たちが言葉や行動で見せる思いやりや助け合いの心が、児童や学生にとつての良い刺激になると思います。

身近な人に気を配ることもとても良いと思います。家族や友達とのコミュニケーションを大切にし、相手の気持ちや立場を理解することが大切です。また、家族や近所のお年寄りの方や、障害を持った方たちの手伝いをしたり、地域の清掃に参加したりすることも、福祉の心を培うためには重要なことです。

さらに、異文化や社会的弱者にも目を向けることが必要です。国内外で起きている紛争や災害に対して、少しでも支援の手を差し伸べることができれば、その地域の人々にとっては、大きな助けとなるはずです。

そして、福祉の心を培うために欠かせないのが、学習です。知識や情報を手に入れ、自分自身の力として身につけることが大切です。地域の福祉に関する情報を収集し、それを活用することで、より良い地域づくりに貢献することが出来ます。

これからも僕たちは、人々とのつながりを大切にし、共に支え合い、助け合い、より良い社会の実現を目指すことが大切です。小さなことからでも、福祉の心を持つことができ、そのことが必ずしも大きな変化をもたらすとは限りません。しかし、その積み重ねが、人々が幸せに生きるための大切な礎となるはずです。

児童や学生の皆さんが育む思いやりの心、助け合いの心、福祉の心は、社会に出る上で欠かせないものです。自分から出来ることを見つけ、周りに優しく接することで、豊かな人間関係が広がり、人生を充実させることが出来ると思います。

それぞれの人が、思いやりの心、助け合いの心を持つことで、次の世代にもそれを引き継ぎ、次の世代にも二つの心を引き継いでほしいです。